

近現代史特講④

○トルコの情勢

1908年青年トルコ革命→アブデュル＝ハミト2世のスルタン専制を打倒→立憲体制が成立
→第一次大戦に同盟国側として参戦し、敗北

{ ⇒ギリシヤがイズミル侵攻
⇒セーヴル条約の締結←領土大幅削減、ダーダネルス・ボスフォラス海峡を国際管理下
=亡国的内容

→ムスタファ＝ケマルの登場

↓ { →トルコ大国民議会の成立(アンカラに)
→ギリシヤ軍も撃破

トルコ革命(1922～23)・・・1922年、スルタン制を廃止＝オスマン朝の滅亡

→1923年、トルコ共和国の成立

→セーヴル条約の破棄に成功⇒ローザンヌ条約(1923)

⇒近代化、脱イスラム化(政教分離)を達成

○中東の情勢

第一次大戦中、イギリスによる三股外交

{ ・フサイン・マクマホン協定(1915)
→戦後、アラブ人の独立を約束する代わりに、オスマン帝国に対して反乱
・サイクス・ピコ協定(1916)
→戦後、英・仏・露で中東地域を分割
・バルフォア宣言(1917)
→パレスチナにユダヤ国家建設を約束(代わりに資金援助)

⇒結局戦後、パレスチナはイギリスの委任統治領に

→19世紀末からのシオニズム運動などでユダヤ人の移住がすすむ

→ユダヤ人とアラブ人の対立激化→国際連合はパレスチナ分割案を採択(1947)

→ユダヤ人はイスラエル共和国を建国(1948)⇔周辺のアラブ国家が反発

=第一次中東戦争

→イスラエルが勝利し、領土を拡大→パレスチナ難民の発生

⇒敗北したエジプトで革命→ナセルが大統領に→スエズ運河国有化宣言

⇔英仏、イスラエルがエジプトに宣戦＝第二次中東戦争(1956)

⇒アラブ民族主義が高揚し、イスラエルは包囲される形に

→イスラエルが先制攻撃＝第三次中東戦争(1967)→6日間でエジプト敗北

{⇒敗北したアラブ諸国は、アラブ石油輸出国機構(OAPEC)結成(1968)
{⇒アラファトを議長とするパレスチナ解放機構(PLO)結成→イスラエルへのテロ攻撃

→エジプト大統領サダト…イスラエルに奪われた土地の解放を求めるも、拒否
⇒第四次中東戦争(1973)←OAPECは石油戦略(値上げ)→オイル・ショック
⇒キャンプ・デービッド会談により和平(1978)→エジプト・イスラエル和平条約(1979)

←
パレスチナ人との歩み寄り=オスロ合意(1993)

→パレスチナ暫定自治協定(アラファト、ラビン首相、クリントン大統領)

→ラビン首相が過激派により暗殺(1995)→再び対立へ

○第二次世界大戦後の世界 「冷戦」の始まり

チャーチル首相(英)→フルトン演説での「鉄のカーテン」

→トルーマン・ドクトリン(1947)…ギリシャ・トルコに向けて

↓ →対ソ外交で「封じ込め政策」を行う

マーシャル・プラン(ヨーロッパ復興援助計画)(1947)



コミンフォルムの結成(ベオグラードで)…共産党の政治的団結を図る

→COMECON(東欧経済相互援助会議)(1949)…共産圏の経済的な結束を図る

→チェコスロヴァキアでの共産党のクーデター→共産党の一党独裁へ

⇔西ヨーロッパ連合(←英・仏・ベネルクス三国の軍事同盟)

⇒北大西洋条約機構(NATO)結成(1949)←アメリカを中心とする西側陣営



ワルシャワ条約機構(1955)で、ソ連側(東側)は対抗

○ベルリン封鎖

戦後ドイツは四分割→ベルリンも四分割

→米英が通貨改革(←スターリンはこれに脅威を感じる)

⇔ベルリン封鎖(→アメリカは空輸で対抗)

→1949年5月に解除

{ →西:ドイツ連邦共和国(初代首相:アデナウアー(キリスト教民主同盟))←都はボン
{ →東:ドイツ民主共和国

○アジアにおける冷戦と「雪どけ」

1948年朝鮮半島は 38 度線を境界として、南北に分裂

- 北:朝鮮民主主義人民共和国(←金日成が建国)
- 南:大韓民国(←李承晩が建国)

⇒朝鮮戦争の勃発(1950)

←アメリカが国連軍を派遣(総司令官:マッカーサー、時の大統領トルーマン)

→ソウルまで攻めてきた北朝鮮軍を壊滅→鴨緑江まで追い詰める

⇔中国の義勇軍が 30 万人派遣→国連軍を押し返し、38 度線で膠着→長期化

⇒1953 年、板門店で休戦会談(←アメリカ軍は韓国に軍隊を駐留)

○日本の再軍備

反共のため←中華人民共和国の成立と朝鮮戦争がきっかけ

→警察予備隊(1950)→保安隊(1952)→自衛隊(1954)

⇒サンフランシスコ平和条約(1951)…西側諸国との平和条約

→日米安全保障条約も同時に結ぶ

○アメリカの反共軍事戦略網

・ラテンアメリカ:リオ条約(米州共同防衛条約)(1947)

・大西洋地域:NATO(1949)

・オセアニア:太平洋安全保障条約(ANZUS)(1951)←米・豪・ニュージーランド

・東南アジア:東南アジア条約機構(SEATO)(1954)

←米・英・仏・豪・ニュージーランド・パキスタン・タイ・フィリピン

・中東:中東条約機構(METO)(1955)

→イラク革命(1958)で、本部をバグダッド→アンカラに=中央条約機構(CENTO)

⇒アイゼンハウアー大統領のとき(→ダレス国務長官による「巻き返し政策」)

○ヨーロッパの雪どけと「再緊張」

ジュネーヴ四巨頭会談(1955)

↓→アイゼンハウアー(米)、イーデン(英)、フォール(仏)、ブルガーニン(ソ)

話し合いによる国際紛争解決の機運

⇒ソ連共産党第20回大会(1956)→フルシチョフによるスターリン批判

⇒キャンプ・デービッド会談(1959)→フルシチョフが初めてソ連首脳としてアメリカを訪問



・スプートニク・ショック(1957)←ソ連で初めての人工衛星打上げ⇔アメリカの嫉妬！！

・アメリカのU2型機が撃墜(1960)→1961年、ベルリンの壁構築

- ・キューバ革命(1959)→親米のバチスタ政権が倒される
 - カストロやチェ=ゲバラ中心→土地改革やアメリカ企業の国有化(→ソ連に接近)
 - ソ連がキューバにミサイル基地を建設
 - ⇔アメリカが反発→ケネディがキューバ海域を軍事的に閉鎖=キューバ危機(1963)

⇒米ソが妥協

- 部分的核実験停止条約(1963)←大気中・水中・宇宙での実験を禁止
- =デタント(緊張緩和)の始まり

○西欧の繋がり

- ・ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC)(1952):仏外相シューマンによる
- ・ヨーロッパ経済共同体(EEC)(1958):ローマ条約(1957)に基づいて結成
 - ←仏・西独・ベルギー・蘭・ルクセンブルク・伊
- ・ヨーロッパ自由貿易連合(EFTA):イギリスが北欧・中欧の国々と結成(発展せず)
- ・ヨーロッパ原子力共同体(EURATOM)(1958)

⇒ヨーロッパ共同体(EC)の結成(1967)

- 拡大EC(1973)や:イギリス、アイルランド、デンマークが加盟
- ギリシャ(1981)、スペイン・ポルトガル(1986)



政治的な統合も要求されるようになる→マーストリヒト条約(1992)

⇒ヨーロッパ連合(EU)結成(1993)

- オーストリア、スウェーデン、フィンランド加盟

→共通通貨ユーロの導入(1999)